六花

新潟大学の魅力と現在(いま)を発信

新潟大学季刊広報誌［RIKKA］
2023.SPRING
NIIGATA UNIVERSITY MAGAZINE
No.44

特集
活力ある大学組織の構築と社会から求められる人材育成

授業紹介 -教育の現場-
Enjoy! **学生ライフ**
注目される研究報告
教員によるコラム“**知見と生活のあいだ**”
新大メモリアル写真館 **あのとき、あの場所**
基金関係のお知らせ
Campus Information

真の強さを学ぶ。
新潟大學
NIIGATA UNIVERSITY

Cover Photo

新緑が美しい季節を迎える新潟大学のキャンパス。授業の合間に一息つく学生。

2023.SPRING No.44

CONTENTS

03 特集
活力ある大学組織の構築と社会から求められる人材育成

08 **授業紹介** –教育の現場–

09 Enjoy! **学生ライフ**

10 **注目される研究報告**

12 **教員によるコラム“知見と生活のあいだ”**

13 **新大メモリアル写真館 あのとき、あの場所**

14 **基金関係のお知らせ**

16 **Campus Information**

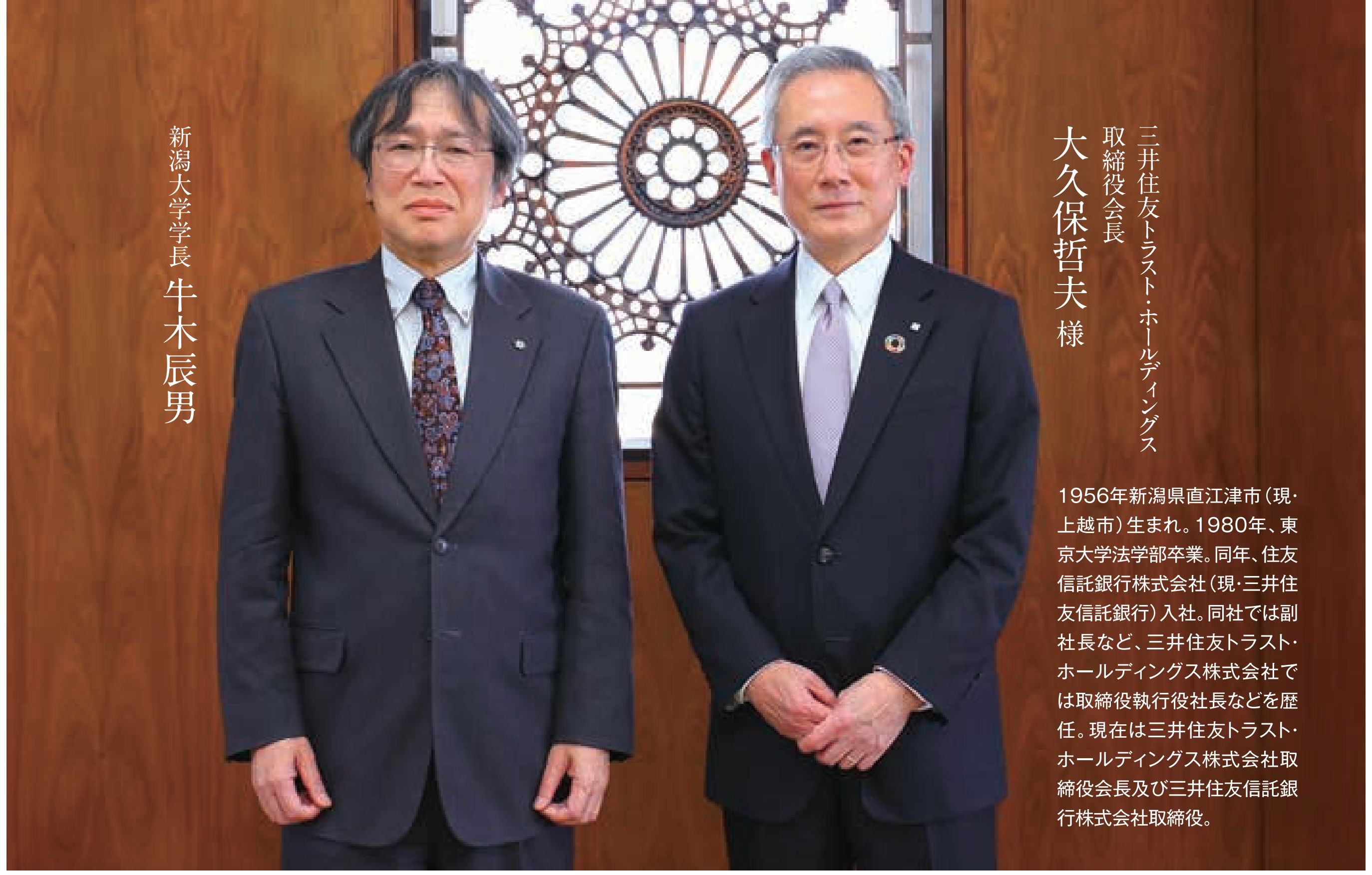
『六花』とは…

本誌のタイトルでもある『六花』とは、本学の校章のモチーフである“雪の結晶”を表す言葉。本学の校章は、シンボルマークであった学生章をモチーフに本学名誉教授 小磯 稔氏がデザイン化したものです。

六花

題 字
野中浩俊(のなか ひろとし)氏
新潟大学名誉教授(教育人間科学部)。専門は、書道、富岡鉄斎研究。現在は、岐阜女子大学 教授

新潟大学SNS公式アカウント
@niigata.univ
@Niigata_Univ_O
@niigata_university



三井住友トラスト・ホールディングス
取締役会長
大久保哲夫 様

1956年新潟県直江津市（現・上越市）生まれ。1980年、東京大学法学部卒業。同年、住友信託銀行株式会社（現・三井住友信託銀行）入社。同社では副社長など、三井住友トラスト・ホールディングス株式会社では取締役執行役社長などを歴任。現在は三井住友トラスト・ホールディングス株式会社取締役会長及び三井住友信託銀行株式会社取締役。

新潟大学学長 牛木辰男

対談実施日：2023年2月9日（木） 場所：新潟大学五十嵐キャンパス事務局棟3階学長応接室

特集

活力ある大学組織の構築と社会から求められる人材育成

活力溢れる組織を築いていくための
リーダーシップやガバナンスのあり方、
ステークホルダーといかに関係を築いていくか。
社会が求める人材や
新潟大学への期待も題材に、
三井住友トラスト・ホールディングス株式会社の
大久保哲夫取締役会長と
新潟大学の牛木辰男学長が対談する。

ライフ・イノベーション将来ビジョンを契機に生まれる議論

牛木学長　大久保さんは新潟県の生まれとお聞きしました。上越市の直江津だそうですね。

大久保様　はい。直江津で生まれて、父の仕事の関係で小学6年生の年に東京に引っ越しました。

牛木学長　私は糸魚川市の出身で高校は上越市にある高田高校に進学しました。本日は新潟にご縁がある大久保さんにお話を伺いたくお越しいただきました。さて、国立大学は2004年の法人化後、6年ごとに定められる中期目標・中期計画に沿って業務運営を行ってきました。新潟大学でもこれまで、その達成のために着実に各種事業や取組を実施してきたところです。一方で中期目標・中期計画の枠組みにとらわれないものとして、SDGsの達成期限でもある20 30年を直近の未来と見据え、大学が果たすべき使命を明確にし、新潟大学のあるべき姿を示した「新潟大学将来ビジョン2030」を策定し、2021年に公表しました。そして、「未来のライフ・イノベーションのフロントランナーとなる」ことをミッションとして定めました。地球に生きる人類の営みを豊かにするために、総合大学である新潟大学の知を結集しようという意味です。

大久保様　「ライフ・イノベーション」という言葉が印象的です。

牛木学長　学部や大学院などの垣根を超え、新潟大学全体を貫く共通のテーマは、「人間」に関わることです。「ライフ・イノベーション」とは、人間が豊かに生きていくために有効なすべての技術革新ということになります。医療・健康・福祉分野に留まらず、21世紀を生きる私たちの生命、人生、生き方、社会の在り方、環境との関わりと、それらの土台となる地球や自然についての新たな価値と意味を生み出すための革新を「ライフ・イノベーション」と定義しました。このような意味を踏まえ、新潟大学は21世紀に生きる人類を導いていけるような価値を提供し続けていくことを使命としています。アメリカ合衆国第34代大統領のアイゼンハワーが語った、“Plans are worthless, but planning is everything.”という言葉があります。「計画それ自体に価値はないが、立案はすべてに勝る」という意味です。出来上が

った計画は時代の変化や対応を迫られた課題を前に無意味になる場合もありますが、何らかの目標を想定して行われた立案の過程は必ず役に立つというものです。このようなミッションやビジョンは作ったきり神棚に載せて終わりでなく、「プランニングを続ける」ために、これを題材にした対話を通じて思考や議論が派生していき、多様な意見や知が集積される契機にならなければと思います。本日、大久保会長にこのような機会を設けていただき、新潟大学将来ビジョンのご意見を伺うことができることを大変嬉しく思います。

経営の透明性が社会での存在感を高める

牛木学長　新潟大学将来ビジョンの1つ「経営・組織改革ビジョン」では、強靭なガバナンス体制構築を目指すことを定めています。「活力溢れる大学組織の構築」に向けて、どのような点に留意していくことが肝要か、ご助言いただけると幸いです。

大久保様　国立大学法人としての経営の透明性と明確な経営戦略が必要なのではと思います。企業経営にも共通するテーマとして、学内外に経営の透明性を高めることによって新潟大学自体の社会における存在感が高まります。また、積極的に学外からの意見をオープンに取り入れる仕組みを作ることによって学内の組織の活性化、ダイバーシティに結びつけることが期待できるのではないでしょうか。また、トップ・リーダーである学長の考え方や、新潟大学が目指す方向の積極的な対外発信も重要だと思います。ステークホルダーのコアとなる学生や将来の学生となる高校生、産業界や県政に対して、将来ビジョンや明確な経営戦略を含む経営トップの考え方を継続して発信・共有するツールがあってもよいかもしれません。

経営・組織改革ビジョン

【目標6-1】（活力溢れる大学組織の構築）

教育・研究・医療・社会貢献を支える教職員の能力や適性を最大限活かすことができる、組織・人・時間のマネジメントを実行する。

① ダイバーシティ&インクルージョンの推進等による教育研究組織の活性化と、人事給与マネジメントの強化等による教職員の活性化を図る。

② 研究者の研究時間の確保や本学独自の褒賞制度の創設等により研究者活性型の経営を推進する。

③ 事務組織の再編と事務職員の専門化・高度化により、大学経営を支える人材の育成を推進する。

④ RPAの導入やデジタル化、オンライン化により、大学運営のスマート化を推進する。

多様な資金調達方法により財政基盤の強化を図る

牛木学長　国からの運営費交付金が減っている近年の大学経営においては外部資金の獲得が大きな課題で、新潟大学でも共同研究、遺贈を含む様々なアプローチに取り組んでいます。多様なステークホルダーとのエンゲージメントを通じた信頼関係の構築が重要と思われます。何のために寄附金を集めているのかを明確にし、社会とのつながりや社会への還元に結び付くよう事業を展開していかねばなりません。その中でも遺贈は大学をご支援いただく方々のお気持ちに対する新しい受け皿であると考えています。新潟大学の卒業生や関係者はもちろん、必ずしもそのような方々でなくても多様なステークホルダーを新潟大学で受け止められるような仕組みづくりのために、今回、三井住友信託銀行さんとリレーションを組ませていただきました。遺贈を希望される方から新潟大学に相談があった場合、具体的な相談先として三井住友信託銀行さんをご紹介することが可能になりました。

大久保様　国内の少子高齢化は後半にさしかかっています。日本では1年間で約150万人の方が亡くなられていて、この30年間くらいを見た調査結果では、相続で動く個人の金融資産は650兆円あると言われています。

牛木学長　大変な金額ですね。

大久保様　はい。そこで問題になっているのが、その資産の動きです。例えば、地方に住む親御さんが都市圏のお子さんに相続されると、金融資産が都市圏に出ていくという現象が起こります。地方における人口減少と同様に、資産の流出も国全体のアンバランスさを助長しているのです。その一方で、今から10年ほど前の統計では、「資産を子

～大久保様のアイデアメモより～

トップの考え方を発信・共有するツール案

- ☑ 大学版統合報告書（簡易で読みやすいもの）のステークホルダーへの配布
- ☑ 配布した後の反応に対する（丁寧な）フォロー
- ☑ SNSの活用による若年層へのアプローチ
- ☑ 定例的な意見交換会（県内企業、県・市、県内外で活躍するOB等）
- ☑ 在学生との車座ミーティング
- ☑ 外部の専門家の活用（コンサル等）

広く外部から知見を求める仕組み作りの案

- ☑ アドバイザリーボードの活用と内容の発信
- ☑ テーマ・分野を特定した海外の大学・研究機関との定例的な意見交換およびその成果の発信（独立性の高い国立大学法人としての経営・事業運営）
- ☑ 外部プロフェッショナルの活用、外部人材の採用

国立大学法人として経営の透明性と明確な経営戦略が必要

どもに残したい」方は全体の2／3ほどの方がいました。ところが、ここ1、2年はその数が半分以下になっているというデータがあります。逆に増えているのは「資産は自分が生きてきた証。社会貢献に役立てたい」という方々です。そのような想いが込められた遺贈の受け皿を選ぶ際に、銀行にご相談いただきたいのです。寄附は各地域の発展や経済活動にとって有効な形で役立てられます。新潟大学の場合は、人材育成、研究開発、社会貢献などに有効に活用されます。そのような新しい経済の動きのある地域には人が集まってきます。そして中長期的には地方に新たな循環を作っていくことが必要だと思います。また、三井住友トラスト・ホールディングスでは各地域の大学や地方公共団体、地元の中央銀行と連携しながらスタートアップ企業や新しい産業への支援を行っています。資金面だけでなく、弊社が蓄積してきた起業や上場などの様々なノウハウや、バランスの良い形での資金循環の取組などもお伝えしています。

牛木学長　新潟大学にも、県内のアントレプレナーシップに係る取組の取りまとめを担当している教員がいます。また、新潟大学医歯学総合病院には法人向けの会員制コワーキングスペース「Innovation Design Atelier（I-DeA）」を開設しました。医師・看護師等の医療職や新潟大学教職員、様々な業種の企業や他大学、自治体等が集い、新たな価値を創造するオープンイノベーションの場であり、企業マッチングを創出する場でもあります。さらに、五十嵐キャンパスでは、異分野融合によるビッグデータ利活用を推進する新潟大学の研究拠点として、ビッグデータアクティベーション研究センターが設置されています。

大久保様　多くの分野をカバーしている総合大学だからこその取組だと思います。

法人向け会員制コワーキングスペース「Innovation Design Atelier（I-DeA）」

産業界が大学に期待する人材育成

大久保様　新潟大学では海外からの留学生を積極的に受け入れていますね。企業は外国人人材の採用に積極的ですが、特に日本語の素養のある外国人は大歓迎です。外国人人材が組織に入ると日本人もグローバル化します。ダイバーシティの重要性が盛んに叫ばれる中、留学生の受入れについて新潟大学としてはどのようなビジョンをお持ちでしょうか。

牛木学長　これまでも五十嵐キャンパスには外国人留学生用宿舎がありましたが、新たに外国人留学生と日本人学生が混住する学生寮の設置を計画しています。コロナ禍を経て改めて思うのは、大学とは出会う場所であり、語る場所であるということです。そして育てていく。それが大学の良さであり、そのような場を整備し提供していくことは大学の大事な役割の一つです。また、卒業して母国に帰った留学生にもこれまで以上にきめ細かくアプローチし、つながりを持ち続ける努力をしていかなければなりません。もちろん、日本に残って活躍する留学生も同様です。

大久保様　日本の大学を卒業した外国人は非常に優秀で企業間

大学とは出会う場所であり語る場所である

【ご遺贈による寄附制度について】

ご遺言により、ご自分の築き上げられた財産を特定の方々に寄附することを遺贈といいます。新潟大学では、遺贈寄附をお考えの方のため、高度な専門性と豊富な経験を有する銀行等と提携し、ご寄附に関する情報提供及び専門的な相談をお受けし、手続のお手伝いをする体制を整えています。ご寄附に対しては相続税法上の優遇措置が受けられます。

新潟大学（サポーター連携推進室）　遺贈のご相談を受け提携先をご紹介（※直接、提携先へのご相談も可能）

↓

提携先　遺贈ご希望の方から遺贈を含む遺言書作成に関する相談の受付・コンサルティング
（※遺言書作成・保管・執行については提携先所定の手数料・報酬が必要）

【新潟大学の提携先】
- ●**みずほ信託銀行株式会社 新潟支店**（新潟市中央区）
- ●**株式会社第四北越銀行**（新潟市中央区）
- ●**三井住友信託銀行株式会社 新潟支店**（新潟市中央区）
- ●**READYFOR株式会社**（東京都千代田区）

↓

提携先　遺言書の保管・管理

↓

遺言者のご逝去　ご逝去の連絡

↓

遺言執行者　遺贈ご希望の方のご遺志に従い、遺言書の内容の任務を遂行

↓ 新潟大学へ寄附　／　↓ ご遺族への遺産配分

【三井住友信託銀行株式会社新潟支店と遺贈寄附に関する協定を締結】

新潟大学は、このたび新たに三井住友信託銀行株式会社新潟支店と遺贈希望者に対する遺言信託業務の紹介に関する協定を締結し、2023年2月9日に新潟大学において、協定締結式を行いました。

締結式では、新潟県のご出身である三井住友トラスト・ホールディングス取締役会長の大久保哲夫氏から「このような取組を通じて新潟大学、新潟県の発展に貢献していきたい」とのご挨拶があり、牛木学長は「生涯築いてこられた大切な財産のご寄附は、科学の発展の拠点としての社会貢献や、次世代の人材育成のために有効に活用したい」と抱負を述べました。

新潟大学では今後も、遺贈や相続財産からの寄附を含む多様な資金調達方法により、外部資金を充実させて、教育・研究基盤の整備を推進してまいります。

では争奪戦です。また、海外の大学の学生が持つ能力の高さも驚くべきものです。以前、北京で開催された就職セミナーに参加しましたが、内定時に日本語を話せなかった学生でも1年半後には見事に日本語をマスターし、専門性の高い日本語での証券外務員にパスするのです。

牛木学長　県内企業も新潟大学の外国人学生には大きな期待を感じてくださっています。新潟大学の活動を継続的にご支援していただける企業・個人の方々に入会いただく新潟大学サポーター倶楽部というものがありまして、約100社の企業に会員になっていただいています。会費の5万円が新潟大学基金に組み入れられ、学生の奨学金などに活用されます。先日、新潟大学基金から支援を受けている学生が自身の活動を報告する「新潟大学サポーター倶楽部報告会」に参加してきたのですが、そこで発表した経済科学部の留学生はとても流ちょうな日本語で話していました。彼女は複数の分野にわたって体系的に学ぶことができる新潟大学独自のメジャー・マイナー制を使い、マイナーでデータサイエンスを履修していて、データサイエンスの学会でも発表しているんだそうです。

大久保様　グローバルに活躍する人材には、ITや数学的素養はもちろんですが、何よりベースとしてコミュニケーション能力が必要です。そのような能力のある人たちをどのように採用していくかというテーマは、企業や日本経済の成長に直結するものだと思います。また一方で、私は理系の専門知識を有した人材、特に理系の博士人材の採用も重要だと考えています。例えば、カーボンニュートラル実現のための長期的な戦略について取引先の方と

令和4年度年間学業成績優秀者奨学金オンライン授与式

令和4年度新潟大学サポーター倶楽部報告会・情報交換会

イノベーションを創出する博士人材を育成する

お話をする場合、専門分野の会話ができないと課題解決の有効な提案が出来ないのです。トランジション・ファイナンス（温室効果ガス削減に取り組む企業への支援を目的とした金融・資金調達）には、現場レベルで専門的な話が分かる人材が双方にとって重要で、理系の専門知識を有した人材にはそのような期待をしています。

牛木学長　今の日本で一番求められているのは「知」と言えるでしょう。大学が多様な分野でイノベーションを創出する博士人材を育成できるか。そのためには大学院教育が重要で、新潟大学としては、博士全員が教育者や研究者になるのではなく、社会に出て企業などで活躍する博士も育てることに力点を置いています。企業の皆さまにはぜひ博士人材活躍の受け皿を広げていただきたいと思います。

大久保様　おっしゃる通りで、現在まさに様々な企業が優秀な専門知識を有した方の獲得に向けてPRしています。

牛木学長　事実、その機運は高まっていると感じます。海外の企業経営者の方とお話すると分かりますが、彼らの名刺にはしばしば博士を示す"Ph.D."と記されています。

大久保様　海外の金融機関のトップの方にも多いですね。それが欧米のスタンダードなのでしょう。本質を見極め、好奇心を持ち続ける、リベラル・アーツ人材は世界共通で求められます。

牛木学長　そのような多様な専門性に対する理解力を身に付けることが大学院教育の価値なのだと思います。

知の集積拠点として地域発展のモデルケースに

牛木学長　最後に「自律と創生」の理念のもとに、「未来のライフ・イノベーションのフロントランナーとなる」というミッションを掲げる新潟大学へ、温かいエールをいただけましたら幸いです。

大久保様　広範囲な学術分野を持つ日本有数の国立総合大学として、優秀な人材の輩出のみならず、特定の研究分野において日本やアジアでのリーダー的存在、知の集積拠点としての存在感を更に高められることを期待します。また同時に、地域における企業や行政等とのネットワークを通じて、日本海側の経済・産業・学術の一大拠点としての地域発展の中心的役割を果たされること、他の地域・地方にとってのモデルケースとなられることも期待しています。

～大久保様のメモより～

新潟大学に寄せる期待

- ☑ 高い総合力を持つ、幅広いリベラルアーツ・教養を有する人材の輩出（受験テクニックではなく、地頭の良い人材）
- ☑ 森羅万象への好奇心、自分以外への高い関心と許容度を持つ人材の育成
- ☑ 自ら主体的に、能動的に行動できる人材の育成
- ☑ 私学ではできない、国立大学の横のネットワークを生かした新たな価値創造（そのネットワークの中心的役割）
- ☑ 特定分野（ライフ・イノベーション）における国内外からの「知」の集積、それを可能とするグローバルに開かれた組織・人材の受け皿の整備
- ☑ 新潟県を中心とする地域の新たなビジネス・起業家育成の「核」として、産学連携のオープンな交流の「場」の提供。具体的なインキュベーション機能（アイディア・事業化の評価、会社設立・運営のサポート、資本・資金の拠出等）の提供

対談を終えて

新潟大学学長　**牛木辰男**

三井住友信託銀行株式会社新潟支店との遺贈寄附に関する協定を締結するにあたり、大久保哲夫様との貴重な対談の機会をいただきました。上越地方出身という同郷のよしみもあったかもしれませんが、お人柄がにじみ出る和やかな雰囲気の中で、楽しい対話の時間をもつことができました。

特に、大久保様から企業経営者から見た大学経営について、多数の示唆に富むお話を伺うことができたのは嬉しいことでした。現在の国立大学が求められる「経営の透明性」と「明確な経営戦略」というご指摘にはじまり、社会や産業界が何を大学に期待するかという話題や、遺贈を含めた社会での資金循環への新しい取組など大変勉強になりました。

大久保様からいただいたエールと、具体的な「アイデアメモ」や「新潟大学に寄せる期待」に対して真摯に向き合いながら、学生、教職員の皆さんとともに、新潟大学の「知の拠点」としての存在感を更に高めていきたいと改めて強く思いました。

意欲ある学生が伸び伸びと勉学に勤しむ

授業紹介

―教育の現場―

専門的な知識や技術の修得と、均整の取れた知識の獲得は教育の重要な役割。約5,000科目の中から特色ある授業を紹介。

創生学部

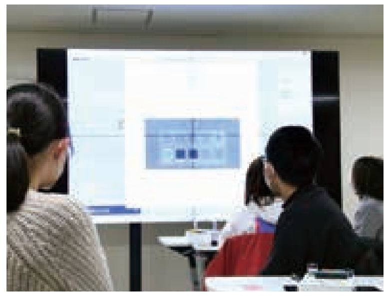
熊野英和 教授
Hidekazu Kumano
Profile　博士（工学）。専門は量子光学。主に量子計算機や量子暗号通信について研究する。

基礎ゼミⅡ／基礎ゼミⅣ

1・2年次合同グループによるゼミ　学生主体で課題解決に取り組む

基礎ゼミは創生学部1～2年次の学生が参加するグループ学習。学生たちは5名程度のグループで複数の教員の指導を受けながら、課題解決型の授業スタイルで主体的に学ぶ。「現代の『社会』問題」「科学技術と社会」「地域を考える―医療と人づくりから」「学びと未来」「生命・環境のデザイン」などに関する課題に取り組む。

「学生は、課題の発見・整理から、解決に関する提案までのプロセスをグループで体験します。グループ活動を通してコミュニケーションスキルや協働力、意見交換の際の発信する力や聴く力、柔軟な発想力を養ってもらいます」と担当の熊野英和教授は話す。



取材当日は、電子タグ（無線で通信する機能を持ったセンサー部品）が各グループに配られ、学生はスマートフォンやタブレットと連動させ、どう組み合わせたらどのような機能が生まれるか、またどのような場面で応用できるのかについて議論していた。

「教員は学生にツールの使い方を教えるだけ。そこから先は学生たちが主体的に考えます。ここで大切なのは電子工学の専門知識よりも、『何ができるか、できないか』を理解すること。そこから疑問や自由な発想が広がっていきます。どんなことにも苦手意識を持たず、知らない世界を積極的に理解するマインドを育ててほしい。膨大な情報から適切なものを見極める力が重要です」

ある程度決められた特定の分野を専門的に学ぶ従来の学部とは異なり、学生自身が自らの目標を設定して学びを深め、他者と協働しながら課題を解決していく、創生学部ならではの授業といえる。

「異学年でのコミュニケーションスキルを高め、論理的な発言や課題解決に向けた提案をプレゼンテーションする能力の修得が目標です。卒業論文のテーマを決める際や、就職した後も、基礎ゼミでの学びは学生たちの大きな力になるはずです」

STUDENTS VOICE

左：**武田双葉**さん（創生学部1年 ※取材時）
右：**川又朱羽**さん（創生学部2年 ※取材時）

「他者の意見を聴き、比較したり取り入れたりしながら、さまざまな視点を得られます」（川又）「自分の考えを相手が理解できるように伝えることはとても難しく、グループの先輩方に助けてもらっています。異なる学年が参加する合同授業には多くの学びがあります」（武田）

病気と闘う子どもと、その家族が一緒にいられますように。

2022年10月オープン

―小児医療宿泊施設― ドナルド・マクドナルド・ハウス にいがた

ハウスの運営は100%皆様からのご寄附で支えられています。温かいご支援をよろしくお願いいたします。

詳細は　新潟大学　ドナルド・マクドナルド・ハウス にいがた　検索

お問い合わせ：サポーター連携推進室　TEL：025-262-6010　E-mail：kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp

Enjoy! 学生ライフ

新潟大学の学生は、勉学はもちろん
部活やサークルなどの課外活動でも活躍しています。
このページではそんな青春の1ページをお届けします。

⬆選手・マネージャーを合わせて全35人が現役で活動する

硬式野球部（こうしきやきゅうぶ）

➡1部リーグでは私立大学の強豪がひしめく中、唯一の国立大学チームとして奮闘している

主体性のあるチームづくり　関甲新学生野球連盟の1部リーグで奮闘

オンシーズンは五十嵐キャンパスの第一野球場、オフシーズンはHARD OFF ECOスタジアム新潟の室内練習場で活動する硬式野球部。週5日、熱心に練習に励んでいる。「部員は経験者が中心で、監督も学生が務めます。そのため、チームづくりや練習内容には常に学生の主体性が求められ、チーム全員で意思を共有していくことでコミュニケーション力が自然に身に付いていく点も魅力です」。ここ数年は、コロナ禍の影響で苦労した面も多かったという。「チーム練習の場が制限され、シーズンを通して不完全燃焼だったメンバーも少なくなかったと思います」。厳しい環境下を乗り切り、昨シーズンから関甲新学生野球連盟の1部リーグに昇格。秋季リーグ戦では9戦3勝の成績で、1部リーグの残留を決めた。「日々の練習の積み重ねが結果と勝利の喜びにつながりました。学業やアルバイトなどとの両立で苦労することもありますが、団結して活動に向き合っていきます」

厳しい上下関係はなく仲良く活動しています

主将
岡田大心さん
（工学部3年）

新潟大学公式アプリ配信中

在学生、受験生、卒業生向けの情報をコンパクトにまとめ、随時お届けします！
ぜひダウンロードください。

App Store　Google Play

新潟大学の特色ある研究トピックを紹介

注目される 研究報告

新潟大学では、伝統的な学問分野を継承するとともに、専門分野を超えて連携し合う研究や、先端的な研究など、真理探究や社会の発展に貢献する研究を行っています。

研究題目 太陽電池セルの高効率化、モジュールの信頼性向上、屋外実証評価まで一貫研究

太陽電池の生涯発電量最大化に取り組み 脱炭素社会の実現に貢献する

エネルギー危機、そして環境問題の観点から世界各国が導入を急いでいる再生可能エネルギー。日本では第一次石油ショックの経験により1974年に発足した「サンシャイン計画」を機に、新エネルギーの技術開発が進められてきた。増田淳教授は、太陽光発電の核となる太陽電池について幅広い角度から研究を行っている。

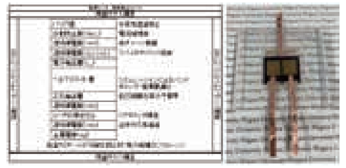
「太陽光発電の一層の普及拡大には、さらなる発電コストの削減が必要です。そのためには、①変換効率を高める ②製造コストを下げる ③信頼性を高め長寿命化する、以上の3点が重要です。私は『ペロブスカイト太陽電池』と現在最も普及している『結晶シリコン太陽電池』を多接合化した『タンデム太陽電池』の構造最適化と劣化防止・長寿命化に取り組んでいます」

工学部
増田 淳 教授
| Profile | 博士（工学）。専門は太陽光発電、電子材料。太陽電池の高効率化や信頼性について研究。令和2年度科学技術分野の文部科学大臣表彰（科学技術賞（研究部門））受賞。新潟大学カーボンニュートラル融合技術研究センターの副センター長を務める。

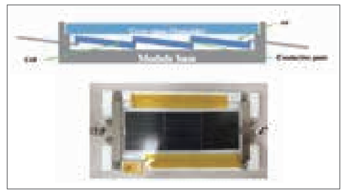
タンデム太陽電池は、異なるセルを積層することで従来よりも広い波長領域で光を取り込める。増田教授はペロブスカイトと結晶シリコンをいかに組み合わせるかに着目し、変換効率と信頼性の双方の向上を目指す。

「2つのセルでは、材質はもちろん構造や特徴も異なり、これらを組み合わせるには高い技術が必要です。バンドギャップや膜の厚さなどの微調整を繰り返しながら最適化を図っています。また、いくら変換効率が上がっても寿命が短ければ意味がありません。劣化を防ぐモジュール構造やモジュール材料についても検証しています。従来の封止材に比べて低温で封止可能なシリコーンを用いることで、モジュール工程での性能低下を防げることを見出しました。また、リサイクルの観点から、将来的には封止材そのものを除去したモジュール開発も視野に入れています」

政府は「2050年カーボンニュートラル」実現を掲げており、特に太陽光発電は大きな柱になると期待されている。



↑ペロブスカイト／結晶シリコンタンデム太陽電池モジュールにおいて高効率・長寿命が期待できる構造の一例（左）と試作サンプルの外観（右）



↑封止材を使用しない新概念太陽電池モジュール（シングリング接続セル使用）の断面構造図（上）と試作サンプルの外観（下）

「ペロブスカイトは、酸素や水分の影響を受けやすいといった課題がある一方で、短期間で飛躍的な効率向上を成し遂げており、壁面など面積制約のあるさまざまな場所やモノへの設置が期待されています。技術開発から屋外実証評価、多用途展開までを網羅し、シリコン系太陽電池を超える、高効率・長寿命なタンデム太陽電池の実用化に向けて今後も研究を進めていきます。同時に、発電分野だけでなく、蓄電や送電分野とも連携しながらカーボンニュートラルの早期達成に貢献したいと思います」

日本の発電量は現在7割以上が化石燃料による火力発電であり、資源のほとんどを輸入に依存している。太陽光発電の普及は、エネルギー問題と環境問題の両輪を解決へと導く、文字どおり「光」となるだろう。

研究題目 価値共創による新しい市場の発展の可能性

県内企業の事例から得られる新たな概念フレームワーク 価値共創のロール・モデルに

経済科学部
石塚千賀子 准教授
| Profile | 博士（学術）。専門はマーケティング。価値のつながり、市場とのコミュニケーションをテーマに新しい価値の生まれ方を研究する。

国際的なハイブランドのリテール・マネージャーという経歴を持つ石塚千賀子准教授。経験と知見を活かしブランドと顧客のつながりを研究してきた。近年は、新潟県内の企業に着目。昨年は長岡市にある、470年の歴史を持つ蔵元、吉乃川株式会社で調査を行った。中でも目を引いたのが、江戸時代から普及したと言われる酒屋の屋号のついた徳利をもって酒を買いに通うという慣習から着想を得た「カヨイ」という取組だ。

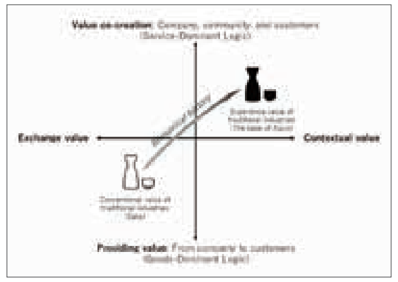
「吉乃川 "カヨイ" は、顧客の大切な日に寄り添いたいという蔵元の想いの結晶です。通い徳利は、クラウドファンディングで募った消費者、ボトルをつくる地域の匠の技、そして蔵元の三者によって現代に蘇りました。製品はプレミアムな日本酒とスタイリッシュなボトルですが、本質的には顧客の大切な日にボトルが蔵と自宅を通うという体験価値が共創されています。これは歴史ある蔵元が伝統を守りながら革新的なサービスを展開したことで共感を得て実現した新しいエコシステムといえます」

従来、市場において価値とは交換されるものであり、その価値は企業から消費者に提供されるのが主流だった。しかし、現代では消費者だけでなく様々なステークホルダーとともに企業が新しい価値を創造する「共創」という概念が注目されている。例えば、米国の企業Uber は、消費者も参加して利用することで価値が生まれ「シェアリング・エコノミー」が成立する。伝統産業でこのような発想に至るのは見事だ。自分たちの利益だけではなく、消費者や社会の共感を得ながら、一緒に地域社会に新しい価値の循環を生み出していく。ESG 経営の考え方にもつながる。

「吉乃川の事例は、他の伝統産業にとっても復興のカギとなる新しい視点があったと考えます。体験価値を共創する一つのロール・モデルになりえると確信しました」

石塚准教授の研究グループはこの研究を国際学術誌で発表。さらに他の県内企業の、リスクを覚悟で持続可能性を重視した経営に挑む事例研究もアメリカの学会で発表した。

「新潟には世界のロール・モデルになるような素晴らしい取組を行っている企業がたくさんあります。これらの事例から一般化できる要素を経営者や地域の未来を担う若者に伝えていきたいです。今後も優れた企業の調査を続け、新しい市場や環境・社会との関係を作るマーケティングアプローチを研究していきます」



↑企業が消費者にモノ（＝価値）を提供するという次元から、歴史を修辞的に利用することで、顧客も含めた関係者がそれぞれの文脈で価値を共創し経験価値が生まれる（Ishizuka, Tseng and Kishi, 2022）

特別なあなたに 特別な1枚
「新潟大学カード」
入会受付中！

新潟大学全学同窓会では、三菱UFJニコスと提携して、ゴールドプレステージの「**新潟大学カード**」を発行しています。多くの特典を享受できるとともに、新潟大学の支援にもつながります。入会のお問い合わせは全学同窓会まで。

特典 年会費無料 海外・国内旅行傷害保険付き（最高3,000万円） 国内主要空港のラウンジが無料

新潟大学カードに関するお問い合わせ先
新潟大学全学同窓会事務局
電話：025-262-7891
（受付時間 平日 10：00〜15：00）
E-mail：n-doso@adm.niigata-u.ac.jp

新潟大学キャンパスライフ支援センターキャリア・就職支援オフィス
CAN システム

卒業生と新潟大学生をつなぐ，キャリア形成サポートの新しいカタチ！
卒業生と学生をつなぐ CAN システム
CAN システムとは Web 上のシステムを介して，
学生の就職活動やキャリア形成をサポートしていただくシステムです。
社会の先輩として学生たちの悩みや不安にアドバイスをお聞かせください！
卒業生の皆様のご登録をお待ちしています！
新潟大学 CAN システム 検索
URL https://www.career-center.niigata-u.ac.jp/

お問い合わせ先 新潟大学キャリア・就職支援オフィス TEL:025-262-6087 FAX:025-262-7579 E-mail:shushoku@adm.niigata-u.ac.jp

COLUMN ◆ 新潟大学教員によるコラム
“知見と生活のあいだ”

本学教員がそれぞれの専門領域と日常の接点を題材に、日々の生活に通じる理論やアイディアを綴るリレー式コラム。第26回は歯学部です。

第26回●歯学部「お口に気になるものがあれば、口腔細胞診（歯科検診）はいかがでしょうか?」

口腔の液状化検体細胞診の採取方法から診断・判定および遺伝子解析への応用

皆さんは、どんな時に歯医者さんを受診していますか？ 虫歯や歯周病の治療などで通院されていると思います。

ところで、口の中にできる口腔がんをご存知でしょうか？ 2019年に女性タレントさんが“舌がんステージ4”を公表したことで、多数の患者さんが大学病院・基幹病院の歯科口腔外科・耳鼻科の医療機関だけでなく、開業歯科医院にも受診されてパニック状態になりました。現在、日本では2人に1人ががんにかかり、3人に1人ががんで亡くなっています。また、2021年国立がん研究センター統計によると、口腔がんの罹患者数は過去10年間で2倍以上増加し、約29,000人です。希少がんに分類されてはいるものの、死亡者数は約8,000人で罹患者数に対する死亡者数の割合が高く、子宮がんの約6,800人と比べても極めて多いという現状を一般の方々には全く知られていないという問題があります。さらに口腔がんなどの悪性腫瘍は、生検（患部の一部を針やメスなどで採取）による診断が必須ですが、患者さんの多くは大学病院などの高次医療機関へ紹介され、そこで初めて生検とともに治療がなされているのが現状です。これに至る過程では、開業医での初診から数ヶ月が経っており、もう少し早く受診していたらと思う悪性腫瘍の患者さんも稀ではありません！

そこで皆さんにお勧めできるのが“口腔細胞診”です。特に『口腔の液状化検体細胞診』は、検体採取者の技術差を問わず、開業の歯科医師や研修医などでも迅速・簡便・安価（保険診療）にて施行することができ、患者さんにも低侵襲（痛みがほとんどない）であることから早期普及が望まれています。また、病変を採取する際は、皆さんに馴染みのある歯間ブラシを用いた細胞診を実施しています。口腔がんの早期発見・早期治療に積極的に取り組んでいる新潟大学医歯学総合病院および新潟県歯科医師会の会員の病院だけでなく、口腔がん検診の啓蒙活動の甲斐があってか、ここ数年では県内外の病院でも口腔の液状化検体細胞診が多く実施されています。

ヘルペスなどの口内炎や歯肉・歯周炎などは体調により症状の増悪と軽快が繰り返し生じるために、早期がんの所見はあるものの、医師だけでなく患者さん自身も何の疑いや根拠なく放置してしまうことが多くあります。口腔細胞診が広く普及することにより、この悲惨な結果が頻繁に生じている現状を少しでも改善できると考えます。

したがって、このような気になる病変が2~3週間経過しても完治しなければ、至急近医にて口腔細胞診などを受診して頂けたら、必ず早期発見・早期治療につながるはずです。

田沼順一
大学院医歯学総合研究科（歯学部）
教授

専門は口腔がん、特に口腔がん早期診断用マーカーの検索およびモデル動物による発がんのメカニズム解明。口腔の液状化検体細胞診を利用した口腔がん検診の啓蒙活動に取り組む。

新潟大学
リサイクル募金
読み終えた本や不用品が募金となって
学生の修学支援などに役立てられます

「新潟大学に寄附したい」とお伝えください
お申込み 新潟大学リサイクル募金 0120-29-7000 （受付）9～18時
（運営）嵯峨野株式会社 〒358-0053 埼玉県入間市仏子 916 埼玉県公安委員会 古物商許可証 第 431100028608 号
企画 新潟大学サポーター連携推進室 TEL. 025-262-5651,6010
真の強さを学ぶ。 新潟大學 NIIGATA UNIVERSITY

2024年、新潟大学は創立75周年を迎えます

新潟大学発足時の農学部は農学科と林学科の二学科体制。入学定員は農学科50人、林学科30人。河渡時代に、総合農学科、農芸化学科、農業工学科、畜産学科が新設されたが、総合農学科は農芸化学科設置時に廃止された。

松とアカシアに囲まれた当時の農学部キャンパス。周辺にほとんど店がないような地域だったが、小金町のバス停付近に飲み食いできる店が2軒ほどと銭湯があった。銭湯に行ってまわりを見渡すと、だいたい皆、農学部生だったようだ。五十嵐キャンパス移転後の跡地には新潟東高等学校が建つ。

新大メモリアル写真館　あのとき、あの場所

新潟大学農学部の前身は、昭和20（1945）年、当時の加茂農林学校（現・加茂農林高等学校）に併立された新潟県立農林専門学校であった。その後、現在の農学部村松ステーションの場所へ移転。同24（1949）年の新潟大学発足を経て、翌年に新潟市（東区）小金町（河渡地区）に移った。河渡時代の農学部で学部生・助手として9年過ごした三沢眞一名誉教授が回顧する。

「校舎は本館と1~6号館などがあり、新設された学科のためにプレハブも建てられていました。私たちの研究室があったのは3号館。木造2階建で冬は非常に寒かった。広い研究室にはガスストーブが2台だけ。足の指がしもやけになったのは、後にも先にも河渡時代の冬だけです」

校舎の裏手は砂丘だった。冬になると雪が積もり通称「河渡スキー場」と呼ばれる斜面をじゅんさい池に向かって滑り降りた。グラウンドには本格的な400メートルトラックがあり、毎年、各学科と教職員チームで競う運動会が開かれた。

「私は長距離が得意だったので、毎年マラソンに参加しました。最後の運動会で、あと一息で10位入賞を逃して11位。悔しい思いをしました。毎年運動会は大いに盛り上がって、終わった後の学科別のコンパも学年の垣根を超えてまた楽しかった。とてものどかな時代です」

一体感があり、決断・行動力に長けた学生が多かったと話を続ける。キャンパス内の食堂は学生によって運営され、働く炊事婦さんたちの給料も食券の売上から支払われていたそうだ。

「ご飯は麦飯。学生は皆、朝昼晩と食堂で食べました。食堂が閉鎖されることになり、お世話になった炊事婦さんたちに退職金を出すため、卒業生全員にもカンパをお願いしました。カンパが予定額を上回り、食堂最後の1週間はごちそうの連続でした」

その後、農学部は昭和49（1974）年の7月に五十嵐キャンパスに移転。混沌とした学生紛争も経験し、退職までの約50年を農学部とともに歩んだ。やはり「河渡キャンパス」の思い出は特別だ。

「農業高校出身ということもあり大学での勉強を苦に思ったことはなく、むしろ受験勉強から解放された楽しい学生生活だったように思います。助手の頃は、未熟な指導にも関わらず、1教えても10を知るような優秀な学生たちに囲まれて助けられていました。今は県会議員になった方もいるし、皆さん立派に活躍しています。私の人生にとって輝く宝のような時代です」

みさわしんいち
三沢眞一
新潟大学名誉教授

農学博士。昭和44年、新潟大学農学部農業工学科卒業。同年、新潟大学農学部助手。同助教授、同教授を経て、平成24年、定年退職。専門は農業水利分野の中で水質を中心とした水環境分野。鳥屋野潟を中心にした亀田郷の水質や、補給水として大通川、新川の水を反復利用している西川の水質などを研究対象として、その改善に取り組んできた。

ー学生の輝く未来を共に創るー 基金関係のお知らせ

地域の中核を担い国際社会で活躍する人材を輩出するため、
「学生の修学支援」「国際交流」「教育施設整備」の推進を目指しています。

新潟大学まなび応援基金

■目的 経済的理由により修学が困難な学生に対して、修学支援事業を行います。
令和2年度からは、「輝け未来!!新潟大学入学応援奨学金」「新潟大学大学院博士課程奨学金」「新潟大学修学応援特別奨学金」及び「新潟大学学業成績優秀者奨学金」に加え、「新型コロナ対策緊急学生サポートパッケージ」により、修学・学生生活支援及び経済支援を行っております。

■寄附者名簿 (R4.12～R5.2寄附入金分)※(50音順 敬称略)

〈 個人 〉石田 武裕　大貫 俊二　田代 文俊　星 祥彦　三浦 淳　盛崎 眞治　匿名希望4名

～優秀な大学院生の研究を応援～ 新潟大学研究等支援基金

■目的 学生等又は不安定な雇用状態にある研究者への研究等を支援する事業を行います。
令和4年1月に創設し、「新潟大学フェローシップ支援」「未来のライフ・イノベーションを創出するフロントランナー育成プロジェクト」により、大学院生の研究費支援を行っております。

■寄附者名簿 (R4.12～R5.2寄附入金分)※(50音順 敬称略)

〈 個人 〉堀川 真理江　目良 恒　匿名希望3名

新潟大学基金

■目的 新潟大学の基盤整備、企業や地域社会との連携、教育・研究活動支援、国際交流活動支援、学生のための厚生施設整備などを推進する事業を行います。

■寄附者名簿 (R4.12～R5.2寄附入金分)※(50音順 敬称略)

〈 個人 〉

青木 洋	赤塚 輝元	秋山 光男	阿久津 隼人	天尾 栄太	荒家 良作	五十嵐 晃	五十嵐 信一郎	五十嵐 務
五十嵐 友子	池本 節二	石井 淳	石田 武裕	石塚 紀夫	石野 隆志	磯西 徹明	伊藤 繁	伊藤 博子
伊藤 嘉宏	伊藤 薫	今井 ありん	今井 かおり	今井 寿男	岩田 喜美枝	上杉 圭吾	植田 孝	上原 知幸
牛木 辰男	牛越 健一	碓氷 吉伸	薄田 利秋	大石 通明	大城 裕一	大島 浩一	太田 新一	太田 利男
太田 雅彦	大瀧　幸夫	大谷 博昭	大沼 博幹	大沼 満	岡田 亮生	荻野 栄八	小黒 正芳	長田 正幸
小沢 昌昭	押井 博也	小野 和子	小野 祐二	風間 祐輝	春日 正利	片平 邦昭	加藤 臣計	金子 好司
金子 峰	加納 秀樹	唐木 敏夫	川島 寛之	河原 行人	川村 豊	神田 敏行	菊池 淳子	木田 俊幸
北山 達也	木下 正	木村 秋夫	木村 征治	木村 弘樹	沓名 克尚	工藤 正孝	久保田 育男	熊谷 敬一
熊倉 秀哉	栗原 啓之	桑原 直行	小池 秀明	合田 正毅	小須賀 基通	小寺 美恵子	後藤 真紀子	小林 晶夫
小林 克夫	小林 智憲	小林 雄二	小林 豊	小林 良和	近 寅彦	近藤 定男	近藤 紀夫	西條 幸平
斎藤 英一	斎藤 祥人	酒井 克弥	坂井 邦夫	相良 駿太	桜井 秀雄	佐々木 修己	佐々木 康則	佐藤 純一
佐藤 新一	佐藤 眞司	佐藤 大輔	佐藤 隆	佐藤 武彦	佐藤 正道	佐藤 増穂	佐藤 安男	澤田 勉
澤田 雅典	塩原 祐太郎	篠原 徹	芝田 正	島田 裕	清水 重臣	清水 義昭	白坂 仁	新保 俊光
新谷 量平	末吉 邦	鈴木 大介	鈴木 敏夫	須田 洋	関口 文子	曽我 紘一	高井 俊一	高野 尚人
高橋 隆行	高橋 哲夫	高畠 稔雄	滝澤 哲也	田中 昭夫	田中 正喜	田中 靖夫	田中 義郎	棚橋 成一
田村 行雄	辻岡 佑汰	土田 秀樹	土橋 治	角山 正博	寺田 剛	寺本 真美	東福寺 幾夫	堂前 洋一郎
戸田 英四	栃倉 哲	戸辺 政光	永井 勝信	永井 祐樹	長井 良二	中島 慶介	中村 英雄	中山 諭
南雲 良一	難波 寿雄	西岡 宏之	野口 公聖	萩原 勝	長谷川 雅人	畑 斉嗣	波多野 龍	服部 浩志
羽鳥 雅章	馬場 敬蔵	林 豊彦	張替 徹	平井 敏彦	平野 昭英	福井 徳人	藤原 英次	舟根 俊一
古澤 俊明	星 祥彦	星野 俊一	星野 麻記	星野 幹夫	星野 良子	細野 利也	堀田 昌宏	本多 良政
前角 寿一	増田 豊	松﨑 セツ	松永 正吾	松山 勇仁	丸山 裕子	水野 立裕	湊元 政揮	宮越 勝久
宮下 正弘	村岡 雅弘	持田 裕	元井 勝信	本橋 政弘	森 正勝	森實 伸太郎	柳本 雄司	矢沢 明
安村(関野) 恒雄	矢田 昌三	山田 良隆	横野 知江	横谷 尚道	吉川 伸善	吉田 滋	吉田 典正	和田 行夫
渡部 勇	渡邉 一夫	渡部 和信	渡辺 剛	渡部 博	割田 悦子			匿名希望96名

〈 団体 〉

株式会社あさひ総研	株式会社アルムノート	株式会社ウィザップ	株式会社植木組
越後ファーム株式会社	一般財団法人協和会	医療法人社団健進会新津医療センター病院	株式会社コーシン
コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社ベンディング新潟支店		国際ソロプチミスト新潟-西	サントリービバリッジソリューション株式会社
株式会社新宣	田中産業株式会社	株式会社 新潟クボタ	公益社団法人新潟県看護協会
新潟綜合警備保障株式会社	新潟大学生活協同組合	新潟トランシス株式会社	株式会社日本ファインケム
藤田金屬株式会社	医療法人社団IUVO山崎歯科医院	株式会社和光ベンディング	

匿名希望9団体

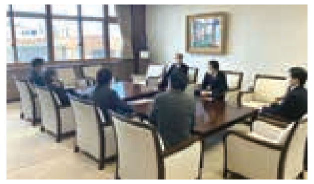
■トピックス

ALSOK新潟綜合警備保障株式会社様からの寄附金目録受贈式が行われました

1月16日(月)に、本学学長応接室において、ALSOK新潟綜合警備保障株式会社様から本学創立75周年記念募金へ500万円のご寄附をいただき、寄附金目録受贈式が行われました。
ALSOK新潟綜合警備保障株式会社代表取締役社長の廣田幹人氏から、ALSOKが取り組むスポーツ活動と環境整備の重要性、新潟大学への期待などが寄せられた後、牛木辰男学長に対して目録が贈呈されました。牛木学長は、ご寄附への謝意とともに「課外活動施設の整備をとおして、スポーツ・健康・学びを一体化させた取組みを社会と共創しながら、地域貢献を進めていきたい」と今後の活動における抱負を述べました。
いただいたご寄附は、本学創立75周年募金基金に受け入れ、学生の課外活動施設整備のため大切に活用させていただきます。

新潟大学基金

株式会社第四北越フィナンシャルグループ様からの寄附金目録受贈式が行われました



本学では、2月28日(火)に学長応接室において、株式会社第四北越フィナンシャルグループ様から本学創立75周年記念募金へ300万円のご寄附をいただき、寄附金目録受贈式が行われました。
受贈式では、株式会社第四北越フィナンシャルグループ代表取締役社長の殖栗道郎氏から牛木辰男学長に対して目録が贈呈されました。牛木学長は、ご寄附への謝意とともに「これからもさまざまな分野で相互に協力しながら、優秀な人材を育成し地域社会へと貢献していきたい」と今後の抱負を述べました。
いただいたご寄附は、本学創立75周年募金基金に受け入れ、課外活動施設改修整備のため大切に活用させていただきます。
新潟大学創立75周年記念募金にご理解をいただき、温かいご支援をよろしくお願いいたします。

木戸病院様に「ドナルド・マクドナルド・ハウスにいがた」への寄附付き自動販売機が設置されました

本学は、サントリービバレッジソリューション株式会社と共同で、自動販売機の売り上げの一部が、新潟大学基金を通じて「ドナルド・マクドナルド・ハウスにいがた」へ寄附される支援型自動販売機の設置を新潟県内に展開することを決定し、その第一号機を2022年4月1日に本学工学部学生玄関内に設置しました。
この度、木戸病院様のご協力により、第三号機を社内に設置していただける運びとなり、1月19日に無事に設置が完了しました。
今後、この支援型自動販売機が広く県内に設置されることにより、病気と闘っている子どもたちとそのご家族が利用できる滞在施設をより多くの皆様に知っていただくきっかけになり、また、ご家族が自宅と入院先での二重生活を強いられ、経済的な負担や家族が離れて暮らす精神的苦痛への支援の輪が広がることを期待しています。
にいがたハウスは、国内12か所目、日本海側では初のハウスとして、2022年10月1日にオープンいたしました。
ハウスの運営は皆様からのご寄附で成り立っております。本学でも今後の運営費用に関する募金を継続して募っております。引き続き皆様からの温かいご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。
また、サントリービバレッジソリューション株式会社様からは、新潟大学サポーター倶楽部会員としても本学への支援を賜っております。

木戸病院様に設置された自動販売機

新潟大学サポーター倶楽部

■目的 継続して新潟大学を支援するため、倶楽部年会費の全額を「新潟大学基金」に寄附します。
また、会員様へ本学の情報発信を行い、新潟大学と会員及び地域社会との連携と発展を目指します。

■寄附者名簿 (R4.12～R5.2入会・更新分)※(50音順 敬称略)

【新規】〈 団体 〉クォリティフーズ株式会社

【更新】〈 個人 〉磯部 利行　駒村 繁　渋谷 敏幸　匿名希望2名

〈 団体 〉

アサヒアレックスホールディングス株式会社	株式会社アルコン	株式会社イーエムエス新潟	株式会社エスエフシー新潟
株式会社小野組	株式会社熊谷	クロスウィル・メディカル株式会社	一般財団法人新潟県けんこう財団
株式会社興和	国際ソロプチミスト新潟-西	株式会社小嶋屋総本店	小林事務機株式会社
株式会社斎藤電設	三和ボーリング株式会社	CEC新潟情報サービス株式会社	株式会社シーキューブ
株式会社ジオックス	積水ハウス株式会社新潟支店	第一生命保険株式会社新潟支社	高倉産業株式会社
高野不動産株式会社	中越クリーンサービス株式会社	株式会社巴山組	株式会社ナルサワコンサルタント
一般社団法人新潟県労働衛生医学協会	日本海エル・エヌ・ジー株式会社	日本シイエムケイ株式会社	株式会社パイオニア
株式会社ピーアールシー	藤田金屬株式会社	松井建設株式会社北陸支店	三星工業株式会社
株式会社ミヤトウ野草研究所	株式会社ヨークベニマル		

最新の会員名簿は、右のURLからご覧いただけます。 https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/supporters/

新潟大学リサイクル募金

■目的 皆様から読み終えた本・DVD等をご提供いただくと、その査定額が新潟大学に寄附されます。
寄附金は学生の修学支援をはじめとした事業に役立てられます。

■寄附者 (R4.12～R5.2寄附入金分) 〈 個人 〉8名 〈 団体 〉7名

遺贈によるご寄附

■遺贈とは 遺言により、ご自分の築き上げられた財産を特定の方々に寄附することを遺贈といいます。
この方法で所有しておられる資産の一部を、新潟大学に遺贈したいとお考えの方のため、高度な専門性と豊富な経験を有する銀行と提携し、その手続きの便宜を図るものです。
遺贈による寄附のご利用を希望される場合やご不明な点がある場合は、下記お問合せ先へお問い合わせください。

■トピックス READYFORの遺贈寄附サポートに登録しました
新潟大学では、遺贈寄附をお考えの方のため、高度な専門性と豊富な経験を有する銀行等と提携し、ご寄附に関する情報提供及び専門的な相談をお受けし、手続のお手伝いをする体制を整えていますが、この度、READYFOR株式会社が運営する「レディーフォー遺贈寄付サポート」に登録いたしました。
これにより、遺贈寄附をお考えの皆様に対するサポート体制を、より一層充実させることができました。

新潟大学遺贈寄附ページ　https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/legacy/

あたたかいご支援、ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

「興味がある」「詳しく知りたい」「寄附したい」とお考えの皆様へ

【ほぼ毎日更新中】
Twitter始めました！
ぜひフォローお願いします

詳しい資料をお送りいたしますので、お問合せ先までご連絡願います。新潟大学ホームページでも詳細をご覧いただけます。

お問合せ先 新潟大学サポーター連携推進室
TEL 025-262-5651・6010・6356 E-mail kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp
H P https://www.niigata-u.ac.jp/university/donation/

Campus Information

地域に密着しながら様々な活動を続ける新潟大学。皆さんにお伝えしたいニュースはたくさんあります。

佐渡自然共生科学センターが佐渡市から「佐渡SDGsパートナー」の認定を受けました

本学佐渡自然共生科学センターは、このたび、佐渡市の「佐渡SDGsパートナー」として認定を受けました。「佐渡SDGsパートナー」とは、持続可能なまちの実現に向けて、佐渡市とともにSDGsの取組を実施する企業や団体等が「佐渡SDGsパートナー」として活動し、SDGsの普及啓発および地域課題の解決、持続可能な取組を推進するものであり、佐渡自然共生科学センターが取り組んできた自然共生科学の学術的知見を生かした環境保全や自然再生の取組が認められたものです。登録期間は、2023年2月1日から2024年3月31日までです。佐渡自然共生科学センターでは、森里海の多彩な研究実績と経験をもとに、地域の様々な活動と連携しながら、島内に立地する教育研究機関として自然共生の島づくりに貢献してまいります。

インド、オーストラリア5大学と大学間交流協定等を締結し、新たな世界展開力強化事業を始動しました

本学は2023年2月21日、インド、オーストラリアの5大学と大学間交流協定等を締結しました。協定等締結大学は、ウーロンゴン大学（豪）、マッコーリー大学（豪）、インド工科大学カーンプル校（印）、インド工科大学ルールキー校（印）、コーチン科学技術大学（印）の5校です。本学理学部は、2022年度文部科学省「大学の世界展開力強化事業」（インド太平洋地域等との大学間交流形成支援）に採択されており、インド、オーストラリア、スリランカの9大学と協同し、国際的なフィールド科学教育プログラムを展開しています。事業名を「インド太平洋地域の『仮想フィールド』を利活用したハイブリッド型フィールド科学人材育成プログラム」と銘打ち、オンライン学習と渡航型オンサイト学習を連結した体験型のプログラムを展開する予定です。今回の大学間交流協定は、同事業の始動に合わせて締結されたもので、同事業のキックオフシンポジウムも同日に開かれました。本プロジェクトの始動を通して、本学は、今後、インド太平洋地域の9校と連携を深めながら、学生の相互派遣や協同学習を通じ、資源や環境を効率的に利用する持続可能な社会の構築に貢献できる国際的な人材の育成を図ります。

全学分野横断創生プログラム（NICEプログラム）事業が「知識集約型社会を支える人材育成事業」中間評価で「S評価」を受けました

令和2年度に文部科学省「知識集約型社会を支える人材育成事業（メニューI）」に採択された、本学の「全学分野横断創生プログラム（NICEプログラム）」事業の中間評価の結果が2023年2月に発表されました。本学は、「計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる」として、最高評価である「S評価」を受けました。S評価を受けた取組は、本事業（メニューI）5校のうち2校でした。これまで、本事業の推進にご尽力いただいた皆様に、深く感謝申し上げます。今後も本事業の推進に取り組んで参りますので、引き続きのご協力・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

新潟大学 季刊広報誌 六花 RIKKA 2023.SPRING No.44
発 行／2023（令和5）年4月
編 集／新潟大学広報室
（新潟市西区五十嵐2の町8050番地）
電 話／025-262-7000
Home Page https://www.niigata-u.ac.jp/
E-mail rikka@adm.niigata-u.ac.jp
新潟大学 Facebook
https://www.facebook.com/niigata.univ

定期送付のお知らせ　季刊誌「六花」は卒業生の皆様に無料で定期送付させていただきます。ご希望の方は、広報室までご連絡ください。

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。